

令和 5 年度健康管理概要



東京大学保健・健康推進本部

はじめに

保健・健康推進本部（保健センター）は、東京大学構成員のみなさまの健康保持、増進をミッションとしています。診療を担当する一般診療室と健康診断や健康管理業務を担当する健康管理室が一丸となり、全ての構成員のみなさまが、現在のもとより将来に渡り心身共に健康に過ごせることを目指して日々の業務に取り組んでおります。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行の後、社会情勢の変化に合わせて、本学でも対面授業が中心になるなど、感染症流行前の日常に戻りつつあります。刻々と変化する世界情勢、学内のニーズに、適切かつ迅速に対応できる健康管理サービスと健康増進の実現に取り組んでおります。

保健センターの一般診療室については、内科、精神科、耳鼻咽喉科、歯科、女性診療科、整形外科、皮膚科の各診療科が設置され、構成員の体調不良や健康上の不安への対応を行っています。特に女性診療科は2023年10月に設置された新しい診療科ですが、同年12月より駒場・柏地区でも診療を開始し、いずれのキャンパスでも構成員の皆様にご利用いただけるよう体制を整備してまいりました。外部の医療機関、専門医療機関と連携した診療に加えて、2024年1月より、保健・健康推進本部と医学部附属病院が連携し、HPVワクチンの接種が開始されました。これは、本学構成員のうち東京都区部（23区）に住民登録がある方を対象に、キャンパス内で接種ができる取り組みとなっています。

保健センターの健康管理室では、学生、教職員のみなさまの健康診断と、その所見に応じた事後措置（健康相談・生活指導等）を実施しています。健康診断は、学生、教職員のみなさまが教育研究活動に安心して取り組むための第一歩です。健康診断の受診率向上、健康づくりに役立つ健康診断を目指し、オンライン予約システムの活用や学内広報、健康診断後の保健指導の充実などの方策に取り組んでいます。

構成員の健康を守り、増進することが保健センターの役割です。今後も構成員のみなさまが、診療や健康診断を安心して受けられるよう気配りと体制整備を行っていきます。私どもの活動が、構成員の多様性を尊重し、多様化による組織の活性化に貢献できるようつとめてまいります。東京大学を構成するすべてのみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年3月

東京大学保健・健康推進本部

本部長 戸田 達史

目 次

I 令和5年度学生健康管理状況の報告

A. 総 論 学生健康管理状況の報告	1
1. 学生定期健康診断受診率の年次推移	2
B. 令和5年度学生健康診断	2
1. 新入生健康診断	2
総 論	2
2. 学生定期健康診断	3
総 論	3

II 令和5年度職員健康管理状況の報告

A. 総 論 職員健康管理状況の報告	4
B. 令和5年度職員一般定期健康診断	4
1. 一般定期健康診断	4
1) 受診状況	4
C. 令和5年度職員特殊健康診断	5
1. 特殊健康診断	5
1) 受診状況	5
2. 放射線取扱者健康診断	6
1) 受診状況	6

III 令和5年度利用状況の報告

A. 健康管理部門	7
1. 健康管理業務（令和5年度）	7
B. 診療部門	7
1. 内科	7
2. 精神科	10
3. 女性診療科	11
4. 歯科	16
5. 耳鼻咽喉科	20
6. 整形外科	22
7. 皮膚科	25
8. 薬局	26
9. ヘルスケアルーム（駒場地区）	29
C. 検査部門	30
1. 放射線室	30
2. 検査室	30

IV 研究活動

A. 研究業績	32
1) 英文原著	32
2) 邦文原著	35
3) 国際学会	36
4) 国内学会	37
B. 外部資金等	40

I 令和 5 年度学生健康管理状況の報告

A.総論 学生健康管理状況の報告

1. 学生定期健康診断受診率の年次推移

B.令和 5 年度学生健康診断

1. 新入生健康診断

2. 学生定期健康診断

A. 総論 学生健康管理状況の報告

保健・健康推進本部（保健センター）は、環境安全本部、相談支援研究開発センターと緊密に連携し、本学構成員の健康管理に携わっている。保健センターが設置されている本郷、駒場、柏キャンパスを中心に、遠隔地施設や学外施設などで活動している学生は28,000名余人に上っている。近年外国人留学生の増加は著しく5,000名を超えている。

保健センターには健康管理室と一般診療室があり、健康管理室は各種健康診断の実施と事後措置、及び保健指導・健康教育を主な業務としている。一般診療室には内科・精神科・歯科・耳鼻咽喉科・整形外科・皮膚科があり、それぞれの科が本学構成員を対象に診療を行っている。令和5年10月には新たに女性診療科も開設された。

学生の健康診断としては、春と秋の新入学生の健康診断、4～6月に行われる在学生の健康診断、教育実習予定者を対象とした健康診断、放射線取扱者を対象としたRI健康診断などが実施されている。

健康診断の受診、結果の閲覧や証明書の発行、健康診断検査項目で異常があった場合の事後措置などは所属キャンパスにかかわらずどの保健センターでも対応できる体制を整えている。保健センターでは循環器、呼吸器、消化器のほか幅広い領域に対応できるように医師を配置しているほか、必要に応じて他の医療機関と連携し、適切な対応をとっている。

健康診断の受診状況では、春の新入生健康診断の受診率は例年100%を達成しているが、留学生の多い秋の新入生の健康診断は残念ながら未受診のままの者も見受けられる。また、在学生の定期健康診断の受診率の低迷は重要な課題である。近年では5割を切る状況が続いており、受診率向上のための取り組みを一層強く進めていきたい。学部によって、受診率に違いがみられており、各部局の取り組みにも期待したい。

個別の健診項目では、胸部エックス線検査における要治療及び要経過観察者の割合は、原因は明らかではないが、ここ数年は増加傾向が見られる。要治療と判定された者に対しては、適切な対応がとられるよう保健センターでサポートしている。

健康診断の受診率は低下傾向を認めているが、診療等のために保健センターを利用する学生数は増加している。引き続きよりよいサービスが提供されるよう保健センターの役割を果たしていきたいと考えている。

1. 学生定期健康診断受診率の年次推移

学生定期健康診断受診率

年 度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
学部学生小計	82.0	74.5	66.1	47.3	36.2	39.9	22.4	39.0	41.0	39.5
大学院学生小計	59.4	60.0	61.1	55.3	57.8	62.5	45.4	50.0	53.8	51.6
総 計	69.4	66.4	63.3	51.9	48.7	53.1	35.7	45.2	48.2	46.3

※平成30年度より休学中・留学中の学生も対象に含む。

B.令和5年度学生健康診断

1. 新入生健康診断

総 論

新入生健康診断は授業開始前の3月27日から4月2日の期間に、駒場キャンパス内のコミュニケーションプラザを会場として6日間の日程で実施した。例年通りほぼ100%の受診率となっている。この健診では、各学生の全体的な健康状態の把握し必要な措置につなげること、集団生活における感染拡大防止のため結核などの感染性疾患を早期に発見すること、教養学部で行われる身体運動・健康科学実技（体育実技）授業参加への支障の有無を確認することが重要な目的となっている。精神保健面接では、大学生年代に生じやすい精神疾患の早期発見と早期介入を目的に、WEB問診と精神科医等専門家の面談によって評価し、必要な対象者には適宜フォローアップを行っている。9月下旬には、教養学部英語コース（PEAK : Programs in English at Komaba）新入生にも同内容の新入生健康診断を実施している。健診の実施項目は、問診、医師診察、身体測定、胸部エックス線検査、血圧測定、尿検査、血液検査、心電図、聴力検査、精神保健問診となっている。9月実施のPEAK新入生も同様に実施された。

健診項目は以下である。

- 1 問診（家族歴、既往歴、症状など）
- 2 理学所見（内科医師診察）
- 3 身体計測（身長、体重）
- 4 胸部エックス線検査
- 5 血圧測定

- 6 尿検査（尿蛋白，尿潜血，尿糖）
- 7 血液検査（赤血球数、白血球数、血色素量、ヘマトクリット、血小板数、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ[AST]，アラニンアミノトランスフェラーゼ[ALT]，ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ[γ -GTP]、総ビリルビン、アルカリフォスファターゼ、乳酸脱水素酵素[LDH]，血糖、総コレステロール、中性脂肪、LDLコレステロール、HDLコレステロール、尿酸、クレアチニン、C反応性蛋白[CRP]）
- 8 心電図
- 9 耳鼻科健診（聴力検査）
- 10 精神保健

なお、平成9年度から健康診断の一環として、『健康のしおり』という冊子を用いて健康教育（飲酒事故防止や性感染症予防などのための集団指導）を行なっている。健康のしおりには、3地区の保健センターの利用法も記載されている。

2. 学生定期健康診断

総 論

学生定期健康診断は、学生定期健康診断Ⅰを修士課程、博士課程、研究生の第一学年を対象として実施し、学生定期健康診断Ⅱは、教養課程新入生および上記学年を除く学部学生、大学院生、研究生、留学生、受入れ研究員を対象として実施している。

問診、血圧測定、身体計測及び胸部エックス線検査は健診Ⅰ、健診Ⅱの共通健診項目として全受診者に対し実施し、更に健診Ⅰでは血液検査、尿検査、心電図検査を行っている。

秋の新入学生の健康診断以外の定期学生健康診断は、毎年6月末までに実施している。また、受入れ研究員に対しては、学生定期健康診断Ⅱの期間内に同等の健康診断（受入研究員健診）を実施している。

なお、保健センターでは定期健康診断を受診している学生に対してのみ各種診断書、証明書の発行を行っている。

Ⅱ 令和5年度職員健康管理状況の報告

A.総論 職員健康管理状況の報告

B.令和5年度職員一般定期健康診断

1. 一般定期健康診断

C.令和5年度職員特殊健康診断

1. 特殊健康診断

2. 放射線取扱者健康診断

A. 総論 職員健康管理状況の報告

東京大学では教職員を対象として、定期健康診断を実施している。これには、一般健康診断（教職員定期健康診断、特定業務従事者健康診断）、特殊健康診断などが含まれている。雇入時の健康診断および海外派遣労働者の健康診断も定期的の実施している。何れも労働安全衛生法、学校保健安全法、感染症法などにもとづいて実施されており、保健センターは、これら健康診断の企画・実施・事後措置を業務としている。

医療保険者である文部科学省共済組合は、40歳～74歳全ての組合員、その扶養家族を対象として特定健康診査の実施義務を負っている。保健センターが実施する健康診断結果をもって、特定健康診査の結果として共済組合で管理することについては共済組合から協力要請があり、法令等に基づいて定期健診結果は、本目的のために共済組合に提供されている。

健康診断を快適に受診できる環境を実現しつつ、健康診断の質の維持を図るため、健康診断のあり方については継続して検討している。保健・健康推進本部には循環器、呼吸器、消化器、など様々な領域の専門医が在籍しており、スタッフの専門性を最大限に生かした、よりよい健診・医療サービスの提供を目指している。

保健センターは、生活習慣病の一次予防である生活習慣病発症の予防を重視するという立場から、単に健診の実施に終始することなく、その事後措置と健康啓発についても力を入れていく。今後とも関係各所のご理解とご協力をお願いしたい。

B. 令和5年度職員一般定期健康診断

1. 一般定期健康診断

1) 受診状況

常勤職員の健康診断受診率 80.6%

C 令和 5 年度職員特殊健康診断

1. 特殊健康診断

特殊健康診断は労働安全衛生法第 66 条第 2 項および第 3 項に規定されるものであり、有機溶剤中毒予防規則、特定化学物質障害予防規則、鉛中毒予防規則、四アルキル鉛中毒予防規則、電離放射線障害防止規則、東日本大震災により生じた放射性物質により汚染された土壌等を除染するための業務等に係る電離放射線障害防止規則(除染電離則)、石綿障害予防規則、高気圧作業安全衛生規則に掲げる業務に従事する職員に対して年 2 回実施する(じん肺についてはじん肺法に基づき、管理区分等に応じた定期健康診断等を実施する)。令和 5 年度第 1 回は 9 月～11 月に、労働安全衛生規則第 44 条に規定されている一般健康診断の項目に上記省令で定められた健康診断項目及び産業医による診察を追加して実施した。第 2 回は 2 月～3 月に労働安全衛生規則第 45 条に規定されている特定業務従事者健康診断の項目に、上記省令で定められた健康診断項目及び産業医による診察を追加して実施した。

なお、各業務の従事者は、必ずしも単独の業務にのみに従事するわけではないという本学の特徴から、一人が複数の有害作業要因に対する特殊健診の対象となることが多いため、特殊健診対象者の総数は、各特殊健診対象者の合計(延べ人数)より少なくなっている。

1) 受診状況

受診状況を特殊健康診断種別毎に集計した結果を表 1 に示す。令和 5 年度の受診率は第 1 回が延べ 1,799 件(87.2%)、第 2 回が 1,602 件(77.1%)であった。

表 1 特殊健診実施実績

健診種別	令和 5 年度第 1 回			令和 5 年度第 2 回		
	対象件数	受診件数	受診率	対象件数	受診件数	受診率
じん肺	5	4	80%	1	1	100%
鉛	14	12	86%	12	12	100%
四アルキル鉛	0	0	0%	0	0	0%
電離放射線	245	206	84%	226	141	62%
石綿	6	5	83%	5	4	80%
高気圧	5	5	100%	5	4	80%
歯科健診	21	21	100%	16	16	100%
有機溶剤	1,364	1,203	88%	1,397	1,111	79%
特定化学物質	404	343	84%	416	313	75%
のべ特殊健診数	2,064	1,799	87.2%	2,078	1,602	77.1%

2. 放射線取扱者健康診断

1) 受診状況

放射線取扱者健康診断受診者数

	新規取扱者		定期（第 1 回）		定期（第 2 回）	
	職員他	学生	職員他	学生	職員他	学生
計	298	757	1,608	1,045	1,602	1,044

Ⅲ 令和 5 年度利用状況の報告

A.健康管理部門

1. 健康管理業務(令和 5 年度)

B.診療部門

1. 内科
2. 精神科
3. 女性診療科
4. 歯科
5. 耳鼻咽喉科
6. 整形外科
7. 皮膚科
8. 薬局
9. ヘルスケアルーム(駒場地区)

C.検査部門

1. 放射線室
2. 検査室

A. 健康管理部門

1. 健康管理業務(令和5年度)

健康管理室の業務には、学生・教職員を対象とする各種健康診断の企画・実施、結果の判定・通知、健診事後措置としての面接・健康指導、及び健診結果に基づく各種証明書の発行等が含まれる。事後措置が必要な方は、保健センタースタッフによる面接、指導の他、保健センターでの診療を行い、必要に応じて外部医療機関への紹介を行っている。

B. 診療部門

1. 内科

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響が残りながらも、制限の緩和がさらにすすめられ、従来の出勤や講堂での授業と、現状の在宅勤務やオンライン授業をどのように折衷していくか、ポストコロナ時代のあり方について検討が多方面でなされた年であった。それに伴い、キャンパス内の人口の増加、海外の学会などの出張の増加、留学生の増加などがみられており、ポストコロナ時代における保健センターのあり方について都度検討を行う年であった。

保健センター内科部門においても、キャンパス内の感染対策、新型コロナウイルスワクチン接種に対する情報発信に引き続き努めながら、海外渡航や留学生の対応など従来行っていた業務に対してポストコロナ時代に合わせたアレンジが行われた。

本郷地区

令和5年度は、新型コロナウイルス蔓延に伴う入構制限の影響もあり、内科診療受診総数は6,126人、(前年度4,937人、令和3年度4,524人、令和2年度2,782人)であった。内訳は学生3,897人(令和4年度3,300人、令和3年度2,798人)、職員2,229人(令和4年度1,637人、令和3年度1,726人)となっており、新型コロナウイルス蔓延による減少の5-6割の回復が見られた。また、学生のうち留学生は1,159人、(令和4年度1,027人、令和3年度707人)であり、増加傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症による減少の7割の回復に留まった。疾患としては呼吸器が最も多く(566人)、次いで風邪(549人)、一般内科(419人)となっていた。呼吸器は最多ではあるものの、昨年より増加傾向にあった。なお、一般内科は、倦怠感や不眠など特定の科と分類しにくい愁訴を集めている。

あわせて、皮膚科201人、整形外科148人、泌尿器科27人と内科以外で本郷保健センター内に診療科のない科の疾患についても積極的に総合診療医の立場から診療を行い、必要に応じて近隣クリニックなどへの紹介を行った。

内科の受診者数のうち、発熱外来は1070人、トラベル科は420人の受診がみられた。トラベル科は前年度314人の受診であり、海外渡航が活発化したことがみてとれた。一方で昨年度までみられた、

渡航前・飛行機搭乗前および実習前など新型コロナウイルスの陰性証明が求められるケースは大幅に減少した。

駒場地区

駒場地区ではキャンパスの運営も新型コロナウイルス感染症流行前の状態に戻りつつある中、内科診療受診者延べ総数は2,191名(前年度2,012名)とやや増加した。その内、学生延べ1,719名(78.5%)、職員延べ472名(21.5%)で、昨年の学生延べ1,353名(67.2%)、職員延べ659名(32.8%)と学生の比率が増加したが、全体および学生の受診者数は年度末に新型コロナ感染症が出現し始めた令和1年度(延べ総数3,924名、学生3,223名(82%)、職員701名(18%))には遠く及ばなかった。また、留学生の受診者数も470名と昨年の359名よりは増加したが、令和1年の554名小数にとどまった。新型コロナウイルス感染症の影響による留学生数が回復し切っていないことが影響した。

受診者の疾患別内訳は風邪が約14.1%(昨年4.7%)と最も多く、気管支炎、喘息などの呼吸器疾患の約10.9%(昨年12.2%)と続いた。受診者の内訳も新型コロナウイルス感染症以前に傾向が戻りつつある。受診者は内科各領域に渡り、内科各分野の専門性を生かした診療が提供された。

トラベルクリニックの受診者数は昨年の54名に対して103名と回復傾向であるが、令和1年度の165名には及ばない数であった。内訳は学生101名(前年45名、令和1年154名)に対して職員は2名(前年9名、令和1年11名)であり学生は回復傾向だった。大学主催の体験プログラムおよび留学の再開は未だ完全ではないため、受診者の増加は鈍かった。

発熱外来では新型コロナウイルスの検査として全自動化学発光酵素免疫測定システム(ルミパルス®)による抗原定量検査を、診療および陰性証明書の発行に際するスクリーニングなどのために行っていたが、令和5年度は8月まで施行された。駒場地区で施行したコロナ関連検査は抗原定量検査(ルミパルス®)102件、外注によるPCR検査は施行されなかった。

駒場保健センターは以前より新入生等若年者およびPEAK(Programs in English at Komaba)学生はじめ、日本語を母国語としない留学生および教職員から引き続き頼りにされている。特に、近隣の駒場ロッジに住む留学生にとって、重要な役割を果たした。

柏地区

令和5年度(2023年度)の内科の診療体制は前年度と同様、平日午前・午後にそれぞれ内科医1名が診療を担当し、内科の各領域の専門の医師が一般内科診療およびそれぞれの専門を生かした診療を行っている。

令和5年度(2023年度)の総受診者数は621名と、令和4年度(2022年度)より113名増加した。新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う入構制限が緩和され、授業も通常の対面形式に定着し、キャンパスに学生・教職員が戻ってきたことで、昨年に引き続き、受診者数増加に寄与したと考えられる。また、令和5年度は留学生の受診者数も154名と令和4年度(2022年度)より27名増加した。

なお、新型コロナウイルス感染症への対応として、部局の希望での新型コロナウイルスの陰性証明の検査を11件、診療の一環として有症状者や濃厚接触者への検査を9件実施した。

また、通常の診療以外に、10月から11月にかけては希望者481名にインフルエンザワクチン接種を実施した。予約制導入11年目であり、よりスムーズなワクチン接種を行うことが可能となっている。

保健センターでは、診療や健康相談、応急処置を行うとともに、状況によっては外部の医療機関の紹介も行っており、学生・教職員にとっては健康増進のための場として利便性が高いと思われる。加えて、留学生および外国人研究員で特に日本語が不自由な場合は、一般医療機関の利用に対して制度的にも不案内であったり、言葉の問題などで不安を覚えたりしているケースも多くあり、留学生および外国人研究員の需要は年々増している。

令和6年度（2024年度）以降も新型コロナウイルス感染症の流行が懸念されるが、すべての利用者に対してキャンパス内でプライマリ・ケアを提供する保健センターの役割と責務を引き続き十分に果たしていくことが求められている。

2.精神科

1) 利用者数の推移

令和2年度は感染症流行のため、利用者数が大きく減少したが、感染症対策を行いながら診療を継続し、令和3年度以降、年間約9,500件まで回復し安定している。この傾向は、受診学生の実数、新規利用学生数でも同様である。感染症対策に留意した診療体制が定着し、毎年診療可能数の上限に到達していることが示唆される。

2) 診断の分布

診断は国際疾病分類（ICD-10）を用いて分類した。例年通り神経症圏の診断が最も多く、気分障害圏、睡眠障害が続いた。臨床的な診断基準は満たさない者、相談の範疇にとどまる者も1割程度見られた。診療では、精神療法、薬物療法に加え、修学環境の調整等を実施している。学内相談室との連携も行っている。

3) 本郷地区での教職員精神科外来

各キャンパスの保健センターでは、教職員が自身のメンタルヘルスについて相談できる外来枠を設けている。診療枠に限りがあり、診療継続が必要な場合には外部医療機関への紹介を行っている。このほか、各キャンパスの保健センターで、指導する学生のメンタルヘルスの問題等に関する、教職員からの相談を受け付けている。

3.女性診療科

本学では令和4年に「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」が制定された。未だ女性の学生・教職員が少ない本学において、男女共同参画の実現は重要な課題の一つであり、女性学生の支援や女性研究者を増やす取り組みなどが行われている。

当保健センターには以前から月経や更年期などの相談が寄せられており、より専門的に対応できる体制が望まれていた。月経関連の不調や更年期障害により諸活動のパフォーマンス低下を感じたり、女性特有の健康課題とキャリアプランの間で悩む女性は非常に多い。誰もが活躍しやすいキャンパスを目指す中で、ダイバーシティ&インクルージョン推進の取り組みを受け、大学内で女性のヘルスケアに関する相談先を提供するため令和5年10月に当保健センターに女性診療科が新設された。

(1) 診療体制・診療実績について

令和5年10月より本郷地区にて診療を開始した。現在の診療日は月～水曜日の週3日である（柏・駒場地区にて診療日がある日は休診）。本郷地区には内診台と経膈超音波があり、内診での超音波検査や子宮頸がん検診、膣培養検査や性感染症の検査も可能となっている。本郷地区の総受診数は225人で、内訳は学生149人（うち留学生72人）、教職員76人であった。新規受診者としては143人であり、主訴としては月経困難症と月経前症候群が最も多く、次いで月経不順・無月経、過多月経、更年期症候群などの相談が多かった。また診察の結果、カンジダ膣症や子宮筋腫が見つかる例も多かった。（表3）にあるその他の受診理由としては、検診希望、貧血、妊娠・不妊の相談、乳房の症状などであった。

さらに、令和5年12月から駒場地区（第2・4火曜日）および柏地区（第3月曜日の午後）での診療も開始した。総受診数は駒場地区13人、柏地区4人であった。現在のところ両地区には内診台はなく、相談や処方、クリニックの案内が中心となっている。これから啓発・広報を進めていく中で、特に駒場地区は新入生の受診者が増えることを期待している。

高次医療施設への紹介は、本郷地区より5名（子宮筋腫4名、内膜症性卵巣嚢胞1名）、駒場地区より1名（子宮内避妊器具抜去困難1名）であった。紹介先としては東京大学医学部附属病院を始めとし、それぞれのご希望に合わせた紹介先を選択している。

また全地区にて緊急避妊や月経移動の対応も行っている。本郷地区では緊急避妊3名、月経移動6名、駒場・柏地区での相談はなかった。

なお、全地区とも女性診療科の診察室に「女性診療科」の掲示はしておらず、本郷地区では部屋番号での呼び出し、駒場・柏地区では直接案内している。プライバシーやジェンダー等で他の産婦人科へ抵抗を感じる方も、できるだけ受診しやすい場を作っていきたい。「女性診療科」という診療科名ではあるが、生物学的な性別によらず、広く相談に対応できるようにと考えている。

(2) HPV キャッチアップ接種について

令和6年1月より、東京大学医学部附属病院との連携により保健センター内でのHPVワクチン公

費接種を開始した。東京 23 区の公費接種券が取り扱い可能である。

令和 6 年 1 月 22 日～3 月 31 日時点での HPV ワクチン接種人数は、本郷保健センター64 人、駒場保健センター16 人であった。学内での接種については非常に便利であるという声が多く、今後啓発を行うことで、接種人数がさらに増えることを期待している。

(3) 啓発・広報について

診療だけではなく、啓発や情報発信も重要な役割であると考えている。女性診療科開設や HPV キャンチャップについての情報提供は、保健センターのホームページやサイネージ、生協メールマガジンにて行ってきた。ただしこれらはホームページ・保健センターへのアクセスや、生協メールマガジンの受診設定が必要となる手段である。婦人科検診や HPV ワクチンの啓発、また月経関連症状や更年期症状などを抱える学生・職員へ必要な情報をどのようにして広く届けていくかは今後の課題である。月経や妊娠・避妊、プレコンセプションケア、性感染症、月経移動、緊急避妊などに関する正しい知識を持つことは、自分自身を守り、さらには自分らしく学業や勤務にあたることができる一助となると考える。性教育が不十分な現在の日本において、大学はこうした知識を届ける最後のチャンスであり、情報の発信も積極的に行っていきたい。

本郷地区

表 1 女性診療科受診者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
学生							27	26	31	15	26	24	149
うち留学生							13	12	16	9	14	8	72
教職員							13	10	17	13	10	13	76
合計							40	36	48	28	36	37	225

表 2 検査件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
血液検査							4	2	4	3	4	6	23
超音波							19	7	13	8	10	12	69
頸部細胞診							16	4	6	2	4	4	36
培養検査							0	0	2	0	0	2	4
オキナゾール挿入							1	2	1	0	0	1	5
フラジール挿入							0	0	0	1	0	0	1

表3 病名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
月経困難症							12	9	12	6	11	0	50
月経前症候群							13	8	10	6	9	7	53
更年期症候群							1	3	1	2	1	1	9
月経不順							7	8	9	2	6	10	42
無月経							0	0	0	0	0	2	2
過多月経							1	0	0	3	3	5	12
不正性器出血							2	1	2	1	1	1	8
カンジダ膣症							1	4	3	0	3	2	13
細菌性膣症							0	0	0	1	0	0	1
クラミジア頸管炎							0	0	1	3	1	0	5
性器ヘルペス							1	0	1	0	0	0	2
外陰部膿瘍							0	1	0	0	0	1	2
子宮頸管ポリープ							0	0	0	0	1	0	1
子宮頸部びらん							3	1	0	0	0	1	5
子宮頸部細胞診異常							1	0	1	0	2	0	4
子宮筋腫							2	3	5	2	1	4	17
子宮内膜症							0	0	1	1	0	0	2
卵巣嚢胞							0	0	1	3	0	0	4
卵巣出血							0	0	1	0	0	0	1
正常妊娠							3	0	0	0	0	1	4
異所性妊娠							0	0	0	0	0	0	0
緊急避妊							0	0	1	1	0	0	2
月経移動							0	1	2	1	0	2	6
その他							13	10	12	12	9	6	62
合計							60	49	63	44	48	43	307

駒場地区

表1 女性診療科受診者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生									2	2	1	1	6
うち留学生									0	1	1	0	2

教職員									2	1	1	3	7
合計									4	3	2	4	13

表 2 検査件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
血液検査									1	0	0	0	1

表 3 病名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
月経困難症									2	0	0	1	3
月経前症候群									2	1	0	1	4
更年期症候群									1	0	0	0	1
月経不順									1	0	0	0	1
過多月経									0	0	1	0	1
不正性器出血									0	1	0	0	1
カンジダ膣症									0	0	0	1	1
子宮筋腫									0	0	1	0	1
その他									1	2	2	5	10
合計									7	4	4	8	23

柏地区

表 1 女性診療科受診者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生									1	0	1	0	2
うち留学生									1	0	0	0	1
教職員									0	1	1	0	2
合計									1	1	2	0	4

表 2 検査件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
血液検査									0	1	0	0	1

表 3 病名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
更年期症候群									0	1	1	0	2
月経不順									0	0	1	0	1
子宮内膜症									1	0	0	0	1
その他									1	1	0	0	2
合計									2	2	2	0	6

4. 歯科

1) 本郷地区

(1) 受診者

2023 年度の本郷地区の受診者総数（実人数）は、学生 494 名、教職員 179 名、合計 673 名で、前年度比 99.8%であった。月別受診数を表イに示す。学生受診者の内訳は、学部生 123 名（学生全体の 24.9%で前年度比 106.0%）、大学院生 138 名（学生全体の 27.9%で前年度比 86.3%）、留学生（学部と大学院の計）233 名（学生全体の 47.2%で前年度比 111.5%）であった。また、初診合計は 357 名、再診合計は 316 名だった。

2023 年 1 月から歯科予約は全て WEB 予約システムに変更したが、予約可能な日時（3 週先まで可能）は、受付開始直後に予約で埋まることが多く、年度を通じて、ほぼ 100%の予約状況であった。

表イ 月別受診者数（実人数）本郷地区

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
学部生	10	9	9	8	10	9	15	14	13	9	10	7	123
大学院生	11	9	13	10	14	13	18	10	10	6	11	13	138
留学生	21	25	23	17	20	13	18	23	23	24	17	9	233
教職員	11	8	15	14	12	12	28	18	11	14	31	5	179
合計	53	51	60	49	56	47	79	65	57	53	69	34	673

(2) 診療内容

診療内容について、表ロに示す。一般診療については、歯周処置が最も多く 1,161 名（全体の 56.4%）、続いて歯科検診 625 名（全体の 30.4%）、口腔相談 156 名（全体の 7.6%、うち矯正相談が 12 名、顎関節についての相談が 12 名）、歯牙硬組織処置が 56 名（全体の 2.7%）の順であった。東大病院への紹介は 76 名で、中等度から重度のむし歯治療などの依頼で東大病院以外へ紹介したのは 5 名だった。なお、酸などの取扱職員に対する歯科特殊健診の受診者は 47 名だった。2022 年 12 月までは歯科特殊健診対象者に対して、こちらから電話をして受診日の調整を行っていたが、2023 年 1 月からは一般予約同様、WEB 予約に移行し、歯科特殊健診設定日に特殊健診を受診することが出来なかった方は別日程で個別対応を行う形式に変更した。

表ロ 治療の内訳（延べ人数）本郷地区

		学部生		大学院生		留学生		教職員		計		総計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
歯科検診		91	32	106	31	134	99	72	60	403	222	625
歯牙硬組織処置	レジン充填	3	1	5	0	6	4	3	2	17	7	24
	その他	3	0	7	2	4	5	6	5	20	12	32
歯周処置	歯石除去	164	56	195	69	255	165	145	102	759	392	1,151
	その他	1	0	0	2	2	3	1	1	4	6	10
口腔外科領域処置		0	0	0	1	1	0	1	0	2	1	3
口腔相談	矯正相談	3	2	2	2	1	1	1	0	7	5	12
	顎関節相談	1	1	1	0	3	2	1	3	6	6	12
	その他	12	12	21	7	27	26	11	16	71	61	132
ブラッシング指導		2	0	0	0	1	0	0	2	3	2	5
経過観察		0	0	1	0	2	0	0	1	3	1	4
歯牙酸蝕症検診		0	0	0	0	0	0	34	13	34	13	47
精密検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
計		280	104	339	114	436	305	275	205	1,330	728	2,058
他院紹介	東大病院	9	7	11	1	21	15	6	6	47	29	76
	その他	0	0	0	1	1	1	0	2	1	4	5
計		9	7	11	2	22	16	6	8	48	33	81

2) 駒場地区

(1) 受診者

2023年度の受診者総数（実人数）は、学生 214 名、教職員 63 名、合計 277 名で、前年度比 240.9%であった。月別受診数を表ハに示す。学生における受診者の内訳は、学部生 104 名（学生受診者全体の 48.6%で前年度比 273.7%）、大学院生 41 名（学生受診者全体の 19.2%で前年度比 195.2%）、留学生 69 名（学生受診者全体の 32.2%で前年度比 186.5%）で、各群で前年度に比べて受診者数が大きく増加した。初診合計は 190 名、再診合計は 87 名であった。

駒場保健センター歯科には口腔外バキュームが設置されていないことから、2023 年度も歯石除去やレジン充填などは控えていた。保健センター歯科受診者の主訴は歯石除去の割合が高いためか、歯石除去を行っていない駒場地区は、比較的予約が取りやすい状況であった。親知らずや歯並びの相談目的で受診を急いでいる場合は、利用者の所属が本郷地区であっても駒場保健センター歯科を受診するケースが増えており、それが受診者数増加の主な理由であったと思われる。

表ハ 月別受診者数（実人数）駒場地区

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生	7	15	8	23	6	4	6	8	14	3	4	6	104
大学院生	1	3	3	4	1	6	4	4	1	5	3	6	41
留学生	6	5	8	2	3	6	8	5	8	8	3	7	69
教職員	0	0	1	2	1	5	22	2	3	18	7	2	63
合計	14	23	20	31	11	21	40	19	26	34	17	21	277

(2) 診療内容

診療内容を表ニに示す。一般診療については、歯科検診が最も多く 234 名（一般診療全体の 62.4%）、ついで口腔相談 133 名（一般診療全体の 35.5%）、歯周処置が 4 名（一般診療全体の 1.1%）で、例年同様、歯科検診の比率が高かった。東大病院への紹介は 40 名、東大病院以外への紹介は 3 名に対して行われた。酸などの取扱職員に対する歯科特殊健診の受診者は 43 名であった。本郷地区同様、駒場地区での歯科特殊健診も WEB 予約に移行し、歯科特殊健診設定日に特殊健診を受診することが出来なかった方は別日程で個別対応を行う形式に変更したが、本郷地区と比較して個別対応の割合が多かった。また、前述の通り、駒場保健センター歯科には口腔外バキュームが設置されていないため、新型コロナウイルス対策として高エアロゾル発生処置である歯石除去やレジン充填は引き続き見合わせている。

表二 治療の内訳（延べ人数）駒場地区

		学部生		大学院生		留学生		教職員		計		総計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
歯科検診		75	30	31	10	38	30	13	7	157	77	234
歯牙硬組織処置	レジン充填	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
歯周処置	歯石除去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	1	0	0	0	2	0	0	1	3	4
口腔外科領域処置		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔相談	矯正相談	7	3	1	0	2	3	0	0	10	6	16
	顎関節相談	1	1	0	0	0	3	0	1	1	5	6
	その他	33	14	18	5	22	10	6	3	79	32	111
ブラッシング指導		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経過観察		2	0	1	0	0	0	0	0	3	0	3
歯牙酸蝕症検診		0	0	0	0	0	0	40	3	40	3	43
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		119	50	51	15	62	48	59	14	291	127	418
他院紹介	東大病院	10	5	6	1	11	5	0	2	27	13	40
	その他	0	1	0	1	1	0	0	0	1	2	3
計		10	6	6	2	12	5	0	2	28	15	43

3) 問題点と今後のあり方

保健・健康推進本部歯科では、プライマリ・ケアに重点をおいている。すなわち、口腔保健意識の向上を図り予防技術を習得して頂くこと、口腔疾患の治療に対する適切な助言を行うこと、また初期治療（保存修復処置、歯周処置）、急発症状に対する除痛処置を主体としている。現在、常勤歯科医師・歯科衛生士に加えて非常勤歯科医師も在籍しているため、口腔外科・歯周病・矯正歯科など、各分野に対して、専門性の高い対応が可能となっている。しかし、設備や器材の関係から、難易度の高い治療や長期にわたる治療、精密な検査が必要とされる場合など、当科で対応できない治療内容に関しては、本学医学部附属病院やその他の大学病院、開業医等、外部の医療機関へ適切な紹介を行っている。また、本郷地区の予約は常にほぼ 100%埋まっている状況であった。そこで、緊急受診が必要な方への対応策として、常勤歯科医師が担当している月曜火曜午前と水曜午前午後を中心に、本来の歯科開室時間よりも 50 分～2 時間程度長く待機して、事前予約のない患者の当日受診が可能な体制を取るように努めた。今後も利用者の利便性を第一に考えた運営を継続したいと考えている。

5. 耳鼻咽喉科

保健・健康推進本部 耳鼻咽喉科ではオージオメーター、ティンパノメトリー、耳鼻咽喉科内視鏡、フレンツェル眼鏡を有しており、耳鼻咽喉科疾患全般に対する基本的・最低限の診断・治療を実施している。

疾患の内訳としては、アレルギー性鼻炎と外耳疾患（耳垢栓塞と外耳炎）が多くを占める。前者については春と秋に患者が増加する。後者については、昨今のスマートデバイスの普及による音漏れ防止型イヤホンを使用する頻度が増加したためと考えられる。本センターで実施不能な検査・治療が必要な場合には外部保険診療施設への紹介を行っている。

令和5年度の動向

令和5年度に保健・健康推進本部耳鼻咽喉科を訪れた学生、職員の総数は1052名であり、前年度(692名)より大幅に増加した。コロナ禍の影響が減ってきていると考えられる。

紹介先外部施設について、依然として医学部附属病院耳鼻咽喉科初診外来の予約待機時間が長いため、本郷キャンパスの職員・学生は東京通信病院へ、駒場キャンパスの職員・学生はJR東京総合病院へ紹介することが多い状況が続いている。

本年はアレルギー性鼻炎の治療薬を中心に採用薬品の見直しを行った。薬価の関係から最新の薬剤は使用できないことが多いが、後発品が出たものは積極的に採用している。2010年頃に本邦で発売された（外部保険診療施設でも十分現役である）薬剤をいくつか採用したため、薬剤不採用に起因する外部施設紹介は減少傾向にある。

表 1 耳鼻科月別受診者数(R5)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	50	39	62	51	39	32	91	55	49	52	67	68	655
うち留学生	16	13	17	23	18	10	17	16	17	13	10	15	185
職員	18	38	19	18	20	29	37	30	24	48	55	61	397
うち病院職員	0	4	2	1	0	4	1	3	1	5	4	7	32
合計	68	77	81	69	59	61	128	85	73	100	122	129	1,052

表 2 施行した検査等の内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ファイバー	3	12	5	6	9	8	16	11	6	11	12	10	109
聴力検査	11	9	9	8	5	12	20	13	16	13	6	5	127

表 3

疾患別内訳

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
急性咽頭炎	7	14	11	11	7	4	16	13	1	15	2	0	101
感冒	0	2	4	3	2	2	3	3	1	2	3	0	25
アレルギー性鼻炎	9	5	8	4	6	3	19	5	11	12	41	0	123
紹介状(発行数)	15	9	15	12	11	9	19	9	7	6	5	8	125

6. 整形外科

身体運動・健康科学実習、スポーツ身体運動実習(体育実技)におけるスポーツ外傷

本学では体育実技が身体運動・健康科学実習として1年生必修の基礎科目とされ、スポーツ・身体運動実習として2年生の総合科目の中の選択科目とされている。体育実技中になんらかの外傷を受傷して当センターを訪れた学生の総数は24名と、前年度の52名より減少した。そのうち、医師診察を要した者は1人で、残りは保健センター内でクーリングなど応急処置を受け、必要時は外部整形外科に適切に搬送された。

表Aに令和5年度の体育実技中の受傷者の受傷種目と受傷の内容を示した。脱臼1名・骨折は0であった。担当教員の安全指導の成果と思われ、今後も重症者の傾向が少なくなることを望むものである。

表A 身体運動実習時の外傷の種類と種目

		サッカー	バレーボール	ソフトボール	バスケットボール	ハンドボール	テニス	バトミントン	フィットネス	卓球	ゴルフ	陸上	サイエンス	ダンス	コーディネーション	メデイカルケア1	メデイカルケア2	メデイカルケア3	エアロ・エクササイズ	合計
突き指		1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
捻挫	手関節	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	足関節	1	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
打撲	顔面・頭部	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	上肢	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	下肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
擦過傷		2	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
切挫傷		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脱臼		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
骨折		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
靱帯損傷		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
筋肉痛		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
腰痛		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼鏡コンタクトによる外傷		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
爪損傷		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計		7	1	9	2	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	24

表 1 受診者数（月別、身分別）

身分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	13	9	8	16	5	9	9	7	8	8	6	5	103
教職員	4	10	1	2	1	2	3	3	3	0	3	4	36
合計	17	19	9	18	6	11	12	10	11	8	9	9	139

*留学生は学生に含まれる

*2021年度より内訳（初・再診）なし

表 2 留学生受診者（実人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	5	2	2	6	1	4	4	4	3	2	2	4	39

表 3 病名分類別内訳（延人数）*延人数とは診断名の数の合計である

病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
その他（疾患）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
肩痛	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
腰痛症	0	1	1	0	0	3	2	2	0	0	0	1	10
筋肉痛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関節痛（四肢）	2	0	2	10	1	5	1	3	4	4	5	1	38
背部痛	2	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	8
頸部痛	1	1	1	3	1	0	0	0	1	1	0	0	9
末梢神経障害・麻痺	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
肉離れ	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
疲労骨折	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
頸椎椎間板ヘルニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
変形性頸椎症	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
肩関節周囲炎	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
肩関節捻挫・鍵盤損傷	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
変形性関節症（上肢）	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
上肢骨折・脱臼 （鎖骨含）	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
上肢腱鞘炎	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4
捻挫（上肢）	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2

肋骨骨折・肋軟骨損傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腰椎椎間板ヘルニア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
変形性腰椎症	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
半月板損傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膝靱帯損傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
変形性関節症（下肢）	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
下肢骨折・脱臼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
筋膜付着部炎（下肢）	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	4
捻挫（下肢）	0	1	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	6
アキレス腱断裂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷・事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷・事故（学内）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
切創・擦過傷（学内）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（頭部）（学内）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（体幹）（学内）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（四肢）（学内）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
外傷・事故（学外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
切創・擦過傷（学外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（頭部）（学外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（体幹）（学外）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲（四肢）（学外）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	6
結果説明	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
合計	14	16	6	17	6	8	12	10	9	8	9	9	124

*2021 年度より病名分類変更

表 4 身体運動実習中の外傷のうち駒場保健センターを受診した患者の診療科別人数

診療科	人数
整形外科	0
内科	1
受診者総数	1

7. 皮膚科

駒場地区

表 1 受診者数内訳

身分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	6	4	6	4	4	5	7	3	4	1	7	4	55
教職員	0	0	1	4	3	2	1	2	1	0	2	1	17
合計	6	4	7	8	7	7	8	5	5	1	9	5	72

*留学生は学生に含まれる

*2021年度より内訳（初・再診）なし

表 2 留学生受診者（実人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	2	4	1	1	3	2	5	1	3	1	3	2	28

表 3 病名分類別内訳（延人数）

病名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
皮膚科	0	2	2	2	4	8	0	2	2	0	4	2	28
湿疹	4	2	3	6	2	0	6	4	4	0	3	2	36
ざそう	3	1	2	0	1	0	1	1	0	0	2	1	12
熱傷	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
皮膚感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
虫刺され	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
口唇ヘルペス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帯状疱疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アトピー性皮膚炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蕁麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陥入爪	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
結果説明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	6	8	8	7	9	7	7	6	0	9	5	79

*2021年度より病名分類変更

8.薬局

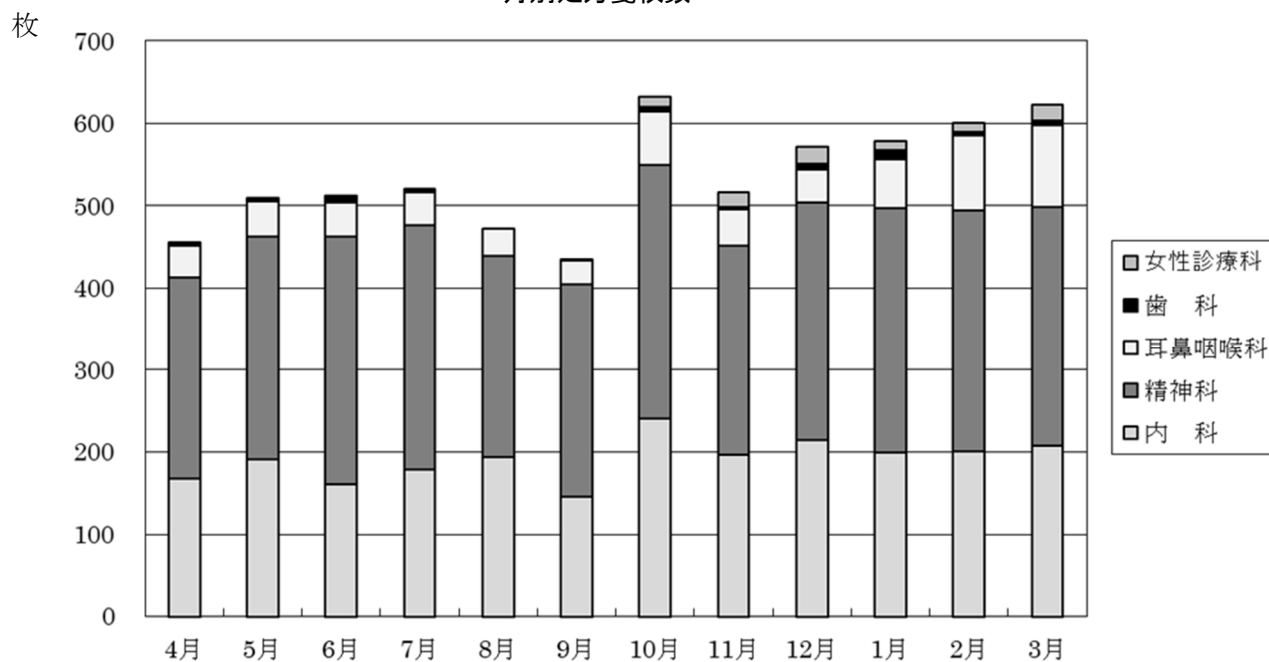
1)本郷地区利用状況

令和5年度の処方箋枚数は6,427であった。その内訳を下記に示す。昨年度の処方箋枚数は5,097で、今年度1,330増加した。

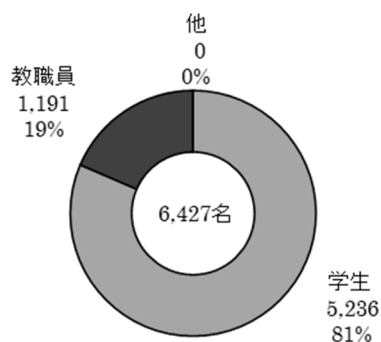
処方箋枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	167	191	159	178	194	145	241	196	214	199	201	208	2,293
精神科	246	272	302	298	245	260	309	255	290	298	293	290	3,358
耳鼻咽喉科	38	42	41	40	34	29	64	45	40	59	92	100	624
歯科	5	4	8	5	0	1	6	2	7	12	3	5	58
女性診療科							12	19	21	11	12	19	94
合 計	456	509	510	521	473	435	632	517	572	579	601	622	6,427

月別処方箋枚数



与薬者の内訳



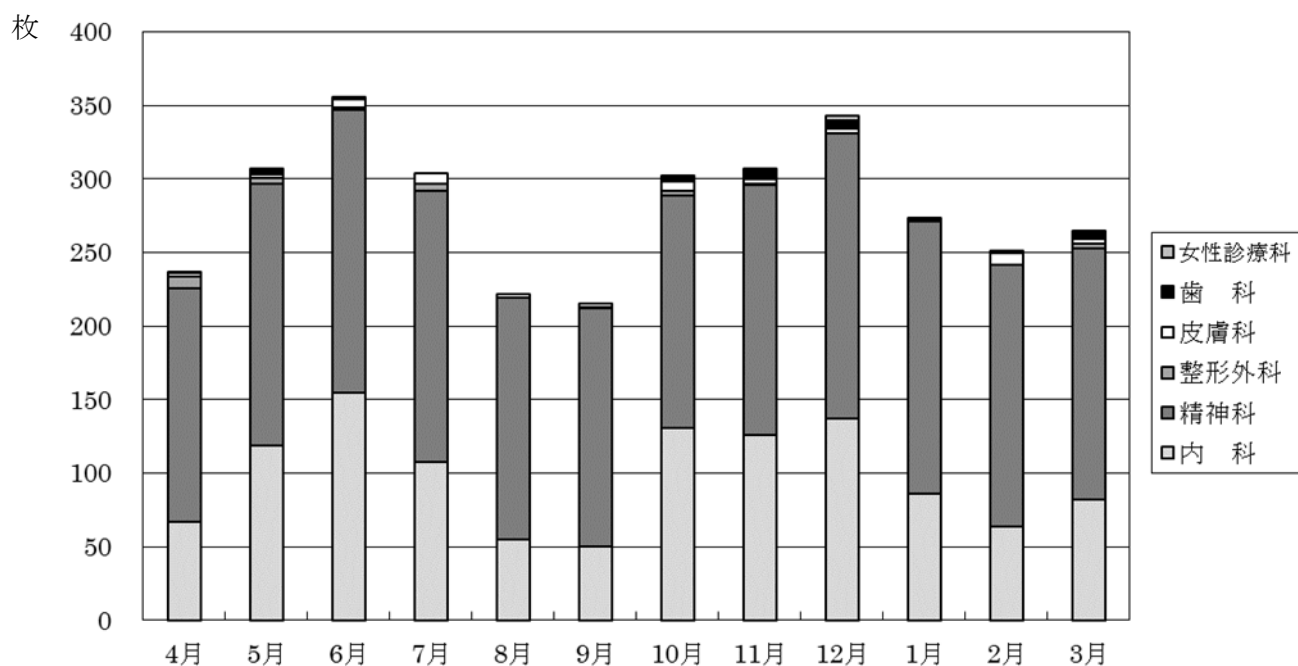
2) 駒場地区利用状況

令和5年度の処方箋枚数は3,383であった。その内訳を下記に示す。昨年度の処方箋枚数は2,835で、今年度548増加した。

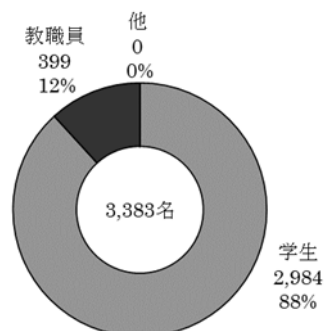
処方箋枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	67	119	155	108	55	50	131	126	137	86	64	82	1,180
精神科	159	178	192	184	164	162	158	170	194	185	178	171	2,095
整形外科	8	4	2	5	0	1	3	1	0	0	0	3	27
皮膚科	2	2	5	7	3	2	6	3	3	1	8	3	45
歯科	1	4	2	0	0	0	4	7	6	2	1	4	31
女性診療科									3	0	0	2	5
合 計	237	307	356	304	222	215	302	307	343	274	251	265	3,383

月別処方箋枚数



与薬者の内訳



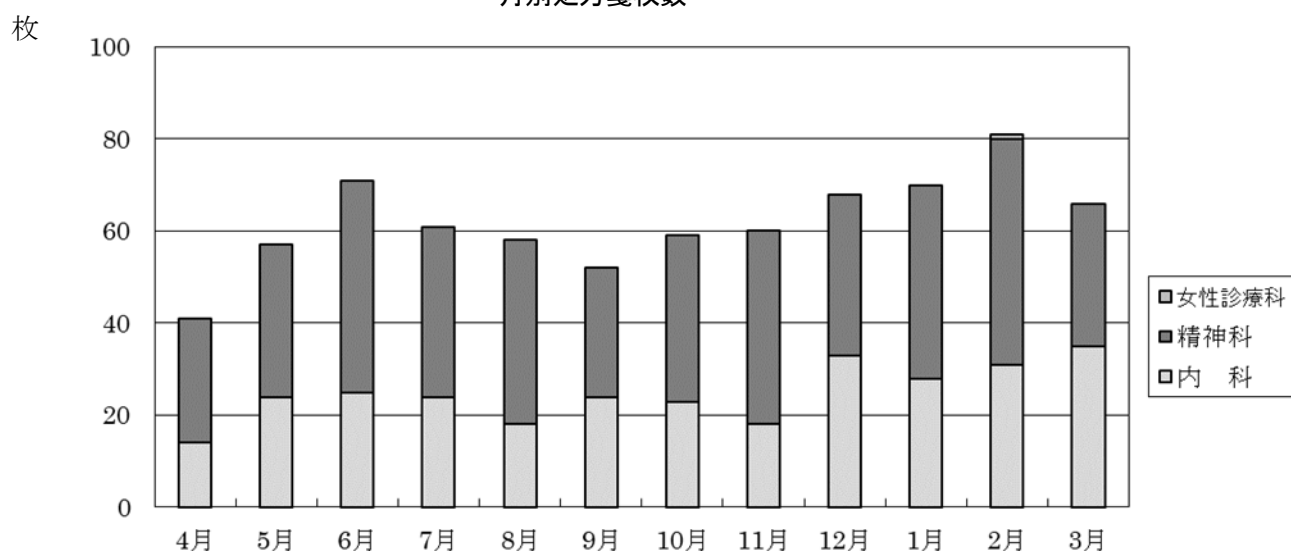
3) 柏地区利用状況

令和5年度の処方箋枚数は744であった。その内訳を下記に示す。昨年度の処方箋枚数は548で、今年度196増加した。

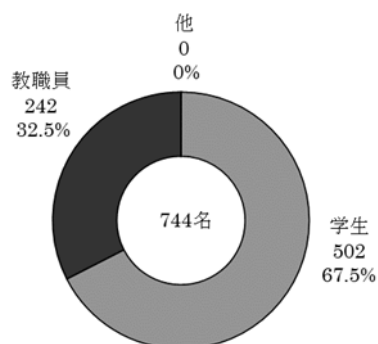
処方箋枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	14	24	25	24	18	24	23	18	33	28	31	35	297
精神科	27	33	46	37	40	28	36	42	35	42	49	31	446
女性診療科									0	0	1	0	1
合 計	41	57	71	61	58	52	59	60	68	70	81	66	744

月別処方箋枚数



与薬者の内訳



4) その他

本部採用医薬品は薬剤管理委員会で審議して決定している。令和5年度は、新規採用申請が36品目（内用薬21、外用薬10、注射薬5）あり、審議の結果36品目が採用された。一方、採用医薬品の見直しや使用実績の低い医薬品の採用継続について審議を行い、21品目（内用薬11、外用薬8、注射薬1、消毒薬1）の採用を中止した。

9. ヘルスケアルーム(駒場地区)

本学の学生及び教職員の健康増進と福利厚生並びに障害者の雇用促進の為、2006年5月15

日ヘルスケアルームを設置し視覚障害者であるヘルスキーパー(あん摩マッサージ指圧師免許取得者)によるマッサージを実施している。

【利用方法】

- ・ 15分の施術で1回500円、または40分の施術で1回1,000円の選択制とする。
- ・ 事前に電話かヘルスキーパー室で予約をする。
- ・ 利用前に駒場地区事務室に身分証(学生証・職員証等)を提示し、施術料を支払う。
- ・ 支払い時に配布される番号札をマッサージ師に渡してマッサージを受ける。

C. 検査部門

1. 放射線室

(本郷地区)

令和5年度の撮影人数は19,499人、撮影・処理件数19,644件、撮影枚数19,511枚であった。

(駒場地区)

令和5年度の撮影人数7,185人、撮影・処理件数7,250件、撮影枚数は7,305枚であった。

2. 検査室

(本郷地区)

尿検査数（令和5年度）

	件数
診療科	355
合計	355

聴力精密検査数

	件数
耳鼻科	182
合計	182

心電図検査数

	件数
診療科	223
その他（健診等）	0
合計	223

呼吸機能検査数

	件数
診療科	2
その他（健診等）	0
合計	2

採血者数

	件数
診療科	982
その他（健診等）	0
合計	982

新型コロナウイルス抗原定量検査

	件数
診療科	99
検査のみ	51
合計	150

(駒場地区)

尿検査数 (令和 5 年度)

	件数
診療科	59
合計	59

呼吸機能検査数

	件数
診療科	0
その他(健診等)	0
合計	0

心電図検査数

	件数
診療科	47
その他 (健診等)	0
合計	47

新型コロナウイルス抗原

定量検査

	件数
診療科	44
検査のみ	11
合計	55

採血者数

	件数
診療科	363
その他(健診等)	0
合計	363

IV 研究活動

A.研究業績

B.外部資金等

A. 研究業績

1) 英文原著

・ Tamiya H, Mitani A, Abe T, Nagase Y, Isago H, Saito M, Yokoyama A, Ishimori T, Jo T, Tanaka G, Suzuki H, Nagase T: Practices of Inhaler Instruction to Patients with Obstructive Lung Diseases in Community Pharmacies: A Questionnaire Survey. *Jpn J Pharm Health Care Sci.* 2023;49(6):214.

・ Kato H, Kimura S, Taguchi M, Sunouchi T, Hoshino Y, Hidaka N, Edvige Foligno N, Koga M, Manaka K, Tamiya H, Kawakami M, Kage H, Yasunaga Y, Nangaku M, Makita N, Ito N: FGF23-related hypophosphatemia in a patient with small cell lung cancer: a case report and literature review. *Endocr J.* 2023;70(10):1005.

・ Yokoyama A, Jo T, Sakamoto Y, Urushiyama H, Tamiya H, Tanaka G, Kumazawa R, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H, Nagase T: Effectiveness and safety of the co-administration of Yokukan-San (Japanese Herbal Medicine) with Antipsychotics in Hospitalized Older Patients with Pneumonia. *Geriatr Gerontol Int.* 2023;23(11):8496.

・ Tamiya H*, Mitani A, Abe M, Nagase T: Putative Bidirectionality of Chronic Obstructive Pulmonary Disease and Periodontal Disease: A Review of the Literature. *J Clin Med.* 2023;12(18):5935.

* Corresponding author

・ Tamiya H*, Abe M, Nagase T, Mitani A: The link between periodontal disease and asthma: How do these two diseases affect each other? *J Clin Med.* 2023;12(21):6747.

* Corresponding author

・ Ogura M, Okazaki S, Okazaki H, Tada H, Dobashi K, Nakamura K, Matsunaga K, Miida T, Minamino T, Yokoyama S, Harada-Shiba M.: Transitional Medicine of Intractable Primary Dyslipidemias in Japan. *J Atheroscler Thromb.* 2024 Mar 26. doi: 10.5551/jat.RV22016. Online ahead of print.

・ Tanaka M, Takase S, Ishiura H, Yamauchi T, Okazaki S, Okazaki H.: A novel homozygous nonsense variant of LMF1 in pregnancy-induced hypertriglyceridemia with acute pancreatitis. *J Clin Lipidol.* 2023;17(3):327-331. doi: 10.1016/j.jacl.2023.03.005.

・ Tada M, Kirihaara K, Koshiyama D, Nagai T, Fujioka M, Usui K, Satomura Y, Koike S, Sawada K, Matsuoka J, Morita K, Araki T, Kasai K. Alterations of auditory-evoked gamma oscillations are more pronounced than alterations of spontaneous power of gamma oscillation in early stages of schizophrenia. *Transl Psychiatry.* 2023;Jun 27;13(1):218.

・ Kato H, Okawa R, Ogasawara T, Hoshino Y, Hidaka N, Koga M, Kinoshita Y, Kobayashi H, Taniguchi Y, Fukumoto S, Nangaku M, Makita N, Hoshi K, Nakano K,

Ito N. Effect of Conventional Treatment on Dental Complications and Ectopic Ossifications Among 30 Adults With XLH. *J Clin Endocrinol Metab.* 2023 May 17;108(6):1405-1414. doi: 10.1210/clinem/dgac732. PMID: 36524341.

•Inoue M, Nagafuchi Y, Ota M, Tsuchiya H, **Tateishi S**, Kanda H & Fujio K :

Carriers of HLA-DRB1*04:05 have a better clinical response to abatacept in rheumatoid arthritis. *Sci Rep* 2023;**13**, 15250–6 (2023).

•Fukasawa T, Yamashita T, Enomoto A, Norimatsu Y, Toyama S, Yoshizaki-Ogawa A, **Tateishi S**, Kanda H, Miyagawa K, Sato S & Yoshizaki A : The optimal use of tildrakizumab in the elderly via improvement of Treg function and its preventive effect of psoriatic arthritis. *Front Immunol* 2023;**14**, 1286251 (2023).

•Fukasawa T, Yamashita T, Enomoto A, Toyama S, Yoshizaki-Ogawa A, **Tateishi S**, Kanda H, Miyagawa K, Sato S & Yoshizaki A : Utility of nailfold capillary assessment for predicting pustulotic arthro-osteitis in palmoplantar pustulosis based on a prospective cohort study. *J Am Acad Dermatol* 2023;**89**, 984–991 (2023).

•Fukasawa T, Toyama S, Enomoto A, Yoshizaki-Ogawa A, Norimatsu Y, **Tateishi S**, Kanda H, Miyagawa K, Sato S & Yoshizaki A : Utility of nailfold capillary assessment for predicting psoriatic arthritis based on a prospective observational cohort study. *Rheumatology (Oxford)* 2023;**62**, 2418–2425 (2023).

•Saito Y, Kamagata K, Andica C, Maikusa N, Uchida W, Takabayashi K, Yoshida S, Hagiwara A, Fujita S, Akashi T, Wada A, Irie R, Shimoji K, Hori M, Kamiya K, Koike S, Hayashi T, Aoki S: Traveling subject-informed harmonization increases reliability of brain diffusion tensor and neurite mapping. *Aging Dis.* 2023;**15**:6:2770-85.

•Usui K, Kirihara K, Araki T, Tada M, Koshiyama D, Fujioka M, Nishimura R, Ando S, Koike S, Sugiyama H, Shirakawa T, Toriyama R, Masaoka M, Fujikawa S, Endo K, Yamasaki S, Nishida A, Kasai K: Longitudinal change in mismatch negativity but not in gamma-band auditory steady-state is associated with psychological difficulties in adolescence. *Cereb Cortex.*2023;**33**:22:11070-9.

•Okada N, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Matsumoto J, Hashimoto N, Kiyota M, Morita K, Koshiyama D, Ohi K, Takahashi T, Koeda M, Yamamori H, Fujimoto M, Yasuda Y, Hasegawa N, Narita H, Yokoyama S, Mishima R, Kawashima T, Kobayashi Y, Sasabayashi D, Harada K, Yamamoto M, Hirano Y, Itahashi T, Nakataki M, Hashimoto R, Tha KK, Koike S, Matsubara T, Okada G, van Erp TGM, Jahanshad N, Yoshimura R, Abe O, Onitsuka T, Watanabe Y, Matsuo K, Yamasue H, Okamoto Y, Suzuki M, Turner JA, Thompson PM, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto

R, COCORO: Subcortical volumetric alterations in four major psychiatric disorders: a mega-analysis study of 5604 subjects and a volumetric data-driven approach for classification. *Mol Psychiatry*.2003;28:12:5260-16.

•Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Okada N, Hashimoto N, Morita K, Koshiyama D, Ohi K, Takahashi T, Koeda M, Yamamori H, Fujimoto M, Yasuda Y, Ito S, Yamazaki R, Hasegawa N, Narita H, Yokoyama S, Mishima R, Miyata J, Kobayashi Y, Sasabayashi D, Harada K, Yamamoto M, Hirano Y, Itahashi T, Nakataki M, Hashimoto RI, Tha KK, Koike S, Matsubara T, Okada G, Yoshimura R, Abe O, van Erp TGM, Turner JA, Jahanshad N, Thompson PM, Onitsuka T, Watanabe Y, Matsuo K, Yamasue H, Okamoto Y, Suzuki M, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R: Cerebral cortical structural alteration patterns across four major psychiatric disorders in 5549 individuals. *Mol Psychiatry*. 2023;28:11:4915-23.

•Nakamura Y, Ishida T, Tanaka SC, Mitsuyama Y, Yokoyama S, Shinzato H, Itai E, Okada G, Kobayashi Y, Kawashima T, Miyata J, Yoshihara Y, Takahashi H, Aoki R, Nakamura M, Ota H, Itahashi T, Morita S, Kawakami S, Abe O, Okada N, Kunimatsu A, Yamashita A, Yamashita O, Imamizu H, Morimoto J, Okamoto Y, Murai T, Hashimoto RI, Kasai K, Kawato M, Koike S: Distinctive alterations in the mesocorticolimbic circuits in various psychiatric disorders. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2023;77:6:345-54

•Ishida T, Nakamura Y, Tanaka SC, Mitsuyama Y, Yokoyama S, Shinzato H, Itai E, Okada G, Kobayashi Y, Kawashima T, Miyata J, Yoshihara Y, Takahashi H, Morita S, Kawakami S, Abe O, Okada N, Kunimatsu A, Yamashita A, Yamashita O, Imamizu H, Morimoto J, Okamoto Y, Murai T, Kasai K, Kawato M, Koike S: Aberrant large-scale network interactions across psychiatric disorders revealed by large-sample multi-site resting-state functional magnetic resonance imaging datasets. *Schizophr Bull*.2023;49:4:933-43

•Tada M, Kirihara K, Nagai T, Koike S, Araki T, Kasai K: Gamma-band harmonic responses for beta-band auditory steady-state response are Intact in patients with early stage schizophrenia. *Neuropsychopharmacol Rep*.2023;44:1:240-5

•Kim IB, Choi J, Park SC, Koike S, Kwon JS, Sun CH, Kim E, Lee JY, Lee YS: Data-mining analysis of media frame effects on social perception of schizophrenia renaming in Korea. *BMC Psychiatry*.2023;23:882

・Tada M, Kirihara K, Koshiyama D, Nagai T, Fujioka M, Usui K, Satomura Y, Koike S, Sawada K, Matsuoka J, Morita K, Araki T, Kasai K: Alterations of auditory-evoked gamma oscillations are more pronounced than alterations of spontaneous power of gamma oscillation in the early stages of schizophrenia. *Transl Psychiatry*.2023;13:218

・Kado A, Tsutsumi T, Yotsuyanagi H, Ikeuchi K, Okushin K, Moriya K, Koike K, Fujishiro M. Noninvasive approach to indicate risk factors of nonalcoholic steatohepatitis overlapping autoimmune hepatitis based on peripheral lymphocyte pattern. *J Gastroenterol*. 58, 1237-1251, 2023.

・Okushin K, Kurano M; UTH-UDCA Study Group (including Kado A); Yatomi Y, Moriya K, Fujishiro M, Tsutsumi T. Ursodeoxycholic acid for coronavirus disease 2019 prevention. *J Intern Med*. 295, 106-109, 2023.

・Soma K. and Yao A. Hospitalizations in Adult Patients With Congenital Heart Disease in Japan. *Circ J*. 2023;88:90-92.

2) 邦文原著

・池澤聰、澤田欣吾、松村雅代、横山太範 AYA 世代のメンタルヘルス支援とメタバース：アート、メタバース心理劇、デジタルヘルス 精神障害とリハビリテーション 27(2):139-145, 2023.

・横山太範、前田英樹、澤田欣吾 青年期の発達障害者に対する心理劇・心理教育マニュアルの効果検証 研究助成論文集/明治安田こころの健康財団 編 (59):44-50, 2023.

・立石 晶子、柳元 伸太郎：COVID-19 流行下におけるインフルエンザ等の呼吸器疾患対策. *CAMPUS HEALTH* 60 (2):1-6. 2023 年 7 月

・小池進介 脳画像の精神疾患領域への応用 診断と治療 P339-43 2024 年 3 月

・中村優子、石田卓也、小池進介 さまざまな精神疾患における中脳皮質辺縁系回路の特徴的变化 精神神経学雑誌 P171-6 2024 年 3 月

・小池進介 大規模、疾患横断脳 MRI 研究を起点とした多階層データ解析 日本生物学的精神医学会誌 P61-7 2023 年 6 月

・高橋努、高柳陽一郎、大井一高、小池進介、平野羊嗣、三浦健一郎 バイオマーカーによる精神科診断の意義と課題 精神科診断学 P79-87 2024 年 1 月

・小池進介 統合失調症の階層的データ解析 医学のあゆみ P570-6 2023 年 8 月

・森本千恵、小池進介 統合失調症と小脳ー臨床病期と男女の違いに着目してー 精神神経学雑誌 P249-57 2023 年 4 月

・小池進介 統合失調症の MRI 研究：病態解明と臨床応用のために必要なこと精神医学 P443-53 2023 年 4 月

- ・小池進介 精神病臨床的ハイリスク群の脳画像研究による病態解明と臨床応用 臨床精神医学 P375-84 2023 年 4 月
- ・小池進介 脳 MRI による精神疾患の未病同定の可能性 基礎老化研究 P21-8 2023 年 10 月
- ・斎藤勇哉, 鎌形康司, 舞草伯秀, アンディカ・クリスティーナ, 内田航, 野崎隼人, 大脇万奈, 萩原彰文, 藤田翔平, 明石敏昭, 和田昭彦, 小池進介, 堀正明, 青木茂樹 ComBat を用いた多施設 DTI および NODDI 定量値のハーモナイゼーション 日本磁気共鳴医学会雑誌 P116-22 2023 年 8 月
- ・小池進介, 岡田直大, 安藤俊太郎, 笠井清登 思春期コホートの階層性データベース構築 生体の科学 P152-7 2023 年 4 月
- ・八尾厚史 循環器疾患最新の治療 2024-2025 *Fontan 手術後の遠隔期管理と問題点*: 南江堂; 2023 年 12 月
- ・八尾厚史、相馬 桂、常盤洋之、後藤耕策、梅井正彦、齊藤暁人、犬塚亮、平田康隆. 成人先天性心疾患のシャント性肺動脈性肺高血圧に対する Treat and Repair. 心臓. 2023;55:637-643

3) 国際学会

- ・ Fujii Y, Minami S, Hatori A, Kawase-Koga Y, Ogasawara T, Hamada H, Kanno Y, Daichi Chikazu D. Integrated microRNA-mRNA analyses of the osteogenic induction of a helioxanthin derivative in human dental pulp stem cells.
ASBMR 2023 Annual Meeting, Vancouver, BC, Canada, 2023.
- ・Koike S. Combining the brain images from case-control studies and adolescent cohorts. International Symposium & Lectures on Population Neuroscience, Tokyo, 2023
- ・ Kado A, Moriya K, Inoue Y, Yanagimoto S, Okushin K, Tsutsumi T, Yotsuyanagi H, Koike K, Fujishiro M. Differences of liver enzyme levels and expression levels of oxidative stress-related genes in peripheral blood mononuclear cells by early alcohol-drinking habits. Digestive Disease Week 2023. Poster presentation.
- ・ Kado A, Moriya K, Inoue Y, Yanagimoto S, Okushin K, Tsutsumi T, Yotsuyanagi H, Koike K, Fujishiro M. Decreased antioxidant superoxide dismutase 1 expression: a potential biomarker to identify high alcohol consumption in early drinking habits. JSH International Liver Conference 2023. Poster presentation.
- ・ Komuro A, Son BK, Nanao M, Song Z, Ogawa S, Akishita M. High phosphorus diet accelerated vascular calcification and aortic aneurysm formation in male mice.
IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, Yokohama, Kanagawa, 2023.

4) 国内学会

第 63 回日本呼吸器学会学術講演会（東京、2023 年 4 月）

- ・地域薬局における閉塞性肺疾患患者に対する吸入指導についてのアンケート調査
田宮浩之、三谷明久、阿部敏秀、長瀬幸恵、砂金秀章、斎藤美奈子、横山晃、石森太郎、城大祐、田中剛、鈴木洋、長瀬隆英

第 55 回日本動脈硬化学会総会・学術集会（宇都宮、2023 年 7 月）

- ・若年成人の高コレステロール血症の診断と治療～生涯 LDL-C 負荷の低減のために～（シンポジウム 15：ライフステージと動脈硬化～シームレスな治療のために～） 岡崎 佐智子、高瀬 暁、久保田 みどり、田中 督記、高梨 幹生、飯塚 陽子、柳元 伸太郎、山内 敏正、岡崎 啓明

- ・挙児希望での陰イオン交換樹脂の使用が契機となり診断されたシトステロール血症の一例
岡崎 佐智子、田中 督記、高瀬 暁、石 璇、高梨 幹生、飯塚 陽子、山内 敏正、岡崎 啓明

- ・「脂質代謝内科医の視点で考える治療戦略」（シンポジウム：ダイバーシティ委員会企画「この症例、あなたの立場ならどう考える?」ダイバーシティな学会だからこそできる多角的視点の獲得!」 岡崎 佐智子

- ・「18 歳は生活習慣の分岐点:健康診断で動脈硬化を防ぐ」（市民公開講座「動脈硬化予防:早めの治療で健康長寿!」） 岡崎 佐智子

第 29 回日本心理劇学会（東京、2023 年 12 月）

- ・メタバースを用いた心理劇の可能性と課題
横山太範, 澤田欣吾, 松村雅代, 小松尚平

SST 普及協会 第 27 回学術集会（金沢、2023 年 12 月）

- ・精神疾患を持つ人々の社会生活目標達成のために ICF(国際生活機能分類)モデル準拠「強みと弱さ評価尺度」のパイロット調査から

天笠崇, 鈴木和, 稲垣晃子, 澤田欣吾, 池淵恵美, 安西信雄, 丹羽真一.

第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会（茨城、2023 年 10 月）

- ・滑膜細胞増殖を標的とした関節リウマチ治療における CDK6 単独阻害の可能性

藤井 亮爾、小松 梨恵、鈴木 由妃、小笠原 徹、杉下 陽堂、仁木 久照、遊道 和雄

第 61 回全国大学保健管理研究集会（金沢、2023 年 10 月）

- ・東京大学における新入生の健診結果の解析

立石 晶子、春原 光宏、古田 明子、杉本 真紀子、柳元 伸太郎

- ・東京大学本郷保健センターのコロナ禍前後での利用状況について

田村 裕太、山田 麻奈美、古田 明子、関根 早苗、生島 直美、田口 真理子、春原 光宏、立石 晶子、柳元 伸太郎

- ・本学職員健康診断要精査対象者への対応～受診勧奨の効果の検討～

古田 明子、立石 晶子、藤田 智子、生島 直美、泉 ちひろ、山田 由紀

子、 井上 有希子、 春原 光宏、 柳元 伸太郎

第 67 回日本リウマチ学会総会・学術集会、(福岡、2023 年 4 月)

・ PsA 患者における併存疾患と治療反応性についての検討

立石 晶子、 大野 久美子、 吉崎 歩、 柴田 彩、 佐藤 伸一、 田中 栄、 藤尾 圭志、
神田 浩子：

第 26 回日本ヒト脳機能マッピング学会 (宇都宮、2024 年 2 月)

・ 大規模・疾患横断脳構造 MRI 研究の知見から脳内ネットワーク解析への提言

小池進介

第 97 回日本薬理学会年会 (神戸、2023 年 12 月)

・ 臨床研究とコホート研究の融合による脳画像に基づいた精神疾患未病同定の試み

小池進介

UTIDAHM 学内シンポジウム (東京、2023 年 12 月)

・ AI は精神疾患を診断できるか？

小池進介

第 45 回日本生物学的精神医学会年会 (名護、2023 年 11 月)

・ 大規模・疾患横断脳 MRI 研究を起点とした階層性データ解析

小池進介

第 42 回日本精神科診断学会 (富山、2023 年 9 月)

・ 「D236-2 光トポグラフィー (2) 抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの」には何
が足りなかったのか？

小池進介

第 119 回日本精神神経学会学術集会 (横浜、2023 年 6 月)

・ 脳画像研究の進歩に精神科医はどう対応していくべきか？

小池進介

第 25 回フィジカルヘルスフォーラム (札幌、2024 年 3 月)

・ 東京大学保健センター 女性診療科を開設して一自分らしく活躍するためにー

中西恵美

第 59 回日本肝臓学会総会 (奈良、2023 年 6 月) 口演

・ 非アルコール性脂肪肝疾患の肝線維化及びその病態進行における末梢メモリーT 細胞のサ
ブセットの違い.

門 輝, 堤 武也, 四柳 宏, 池内 和彦, 奥新 和也, 森屋 恭爾, 小池 和彦, 藤城 光弘

・ 高脂肪酸下の肝癌細胞の生存における Interleukin 10 の役割.

門 輝, 奥新 和也, 堤 武也, 池内 和彦, 森屋 恭爾, 四柳 宏, 小池 和彦, 藤城 光弘

・ FIB-4 index は一般集団における将来的な慢性肝炎および肝硬変の発症を効率的に予測す
ることが可能である.

奥新 和也, 山道 信毅, 西川 尚子, 池内 和彦, 門 輝, 堤 武也, 小池 和彦, 藤城 光

弘

日本消化器病学会関東支部第 375 回例会（東京、2023 年 7 月）口演

- ・大学入学時健診を契機に診断された原発性硬化性胆管炎の症例.

井上 有希子, 柳元 伸太郎, 門 輝, 高原 楠晃, 金井 祥子, 森屋 恭爾, 小池 和彦,
藤城 光弘

第 65 回日本消化器病学会大会. JDDW2023（神戸、2023 年 11 月）口演

- ・NAFLD と ALDH2 活性から見た非飲酒青年男子の脂質代謝の違い.

門 輝, 井上 有希子, 森屋 恭爾, 平池 勇雄, 柳元 伸太郎, 堤 武也, 池内 和彦, 奥
新 和也, 四柳 宏, 小池 和彦, 藤城 光弘

第 65 回日本老年医学会学術集会（神奈川、2023 年 6 月）

- ・高リン食による血管石灰化・大動脈瘤形成の機序解明：モデルマウスを用いた検討

小室 絢、孫 輔卿、七尾道子、宋 沢涵、小川純人、秋下雅弘

第 8 回日本肺高血圧・肺循環学会（神戸、2023 年 6 月）演者

- ・成人先天性心疾患シャント関連肺動脈性肺高血圧患者の移行医療

八尾 厚史

第 25 回日本成人先天性心疾患学会学術集会（会長：上村秀樹、副会長：八尾厚史）（東京都、
2024 年 1 月）共同演者

- ・心臓 MRI を用いた体心室右室患者に対する治療法の検討

後藤耕策、相馬 桂、安藤 智、常盤 洋之、梅井 正彦、齊藤 暁人、假屋 太郎、藤生
克仁、犬塚 亮、平田 康隆、八尾 厚史

- ・綿密な画像評価によりシャント閉鎖術の適応と判断し得た ASD-PAH/pseudo Eisenmenger
症候群の 2 症例

小林智美、相馬 桂、齊藤 暁人、後藤 耕策、常盤 洋之、梅井 正彦、安藤 智、犬塚
亮、平田 康隆、八尾 厚史

- ・シミター症候群に合併した右肺底区動脈大動脈起始症に対して経カテーテル的コイル塞栓
術をした一例

齊藤 暁人、相馬 桂、安藤 智、後藤 耕策、常盤 洋之、白神 一博、犬塚 亮、森
田 啓行、八尾 厚史

- ・未修復完全型房室中隔欠損-Eisenmenger 症候群に対する東大式 Treat & Repair プロトコ
ールの適用

安藤 智、相馬 桂、福見 大地、後藤 耕策、常盤 洋之、梅井 正彦、齊藤 暁人、八尾 厚
史

- ・ACHD-sPAH の治療指針をどう立てるべきか

常盤 洋之、相馬 桂、安藤 智、小林智美、後藤 耕策、梅井 正彦、齊藤 暁人、八尾 厚
史

B. 外部資金等

1. 科学研究費助成事業

1) 学術研究助成基金助成金

計 6 件

2) 厚生労働科学研究費補助金

計 2 件

2. 寄 附 金

計 15 件